

住商畜産SPF豚農場紹介

花岡秀昌*

はじめに

SPF豚による企業養豚を推進するため現在、住商鬼怒川SPF農場でSecondary SPF豚を飼育していますが、これを直接飼育した人たちは決して平坦な道を歩んできたわけではありません。そこにはいろいろ技術的な苦勞があり、ある問題に遭遇するたびにこれを解決し、今日のSecondary SPF豚生産にまで成長してきたわけです。

いまこれらの歩んできた道をふり返ってみると、たとえばPrimary SPF豚の育成中、新たなSPF豚舎の建設がおくれたため、種豚育成の基本である運動を中止したこともありました。そのため、裂蹄が出たり、またConventionalの標準飼料給与で肥りすぎ、そのため種豚の種付け状態が悪かったりしましたが、いままでSPF状態を保つことができましたのは農場内で管理している人たちの細かい注意によるチームワークの結果であります。

これらの苦勞が貴重な経験となって、今後のSPF農場が新しい養豚企業化へと前進することを期待しつつ、住商鬼怒川SPF豚農場の現況と将来の見通しについて紹介します。

I 住商鬼怒川SPF豚農場の位置

住商鬼怒川SPF豚農場は栃木県の名所、日光および鬼怒川温泉の近くで、国鉄今市駅から車で20分内外のところ、鬼怒川温泉から流れてくる鬼怒川と日光の華嚴の滝から流れ出る大谷川とが合流した地点にあります。なお住所は栃

木県今市市町谷下関の沢2002の15であります。

住商鬼怒川SPF豚農場は総面積43万平方メートルで自然の松林と川とによって隔離され、地理的にSPF豚Repopulationには絶好の土地です。なお、当場の近くにはConventional豚は飼育されておらずSPF豚飼育にはもってこいで、農場は青空とオゾンでいっぱいです。

II 住商鬼怒川SPF豚農場の現状

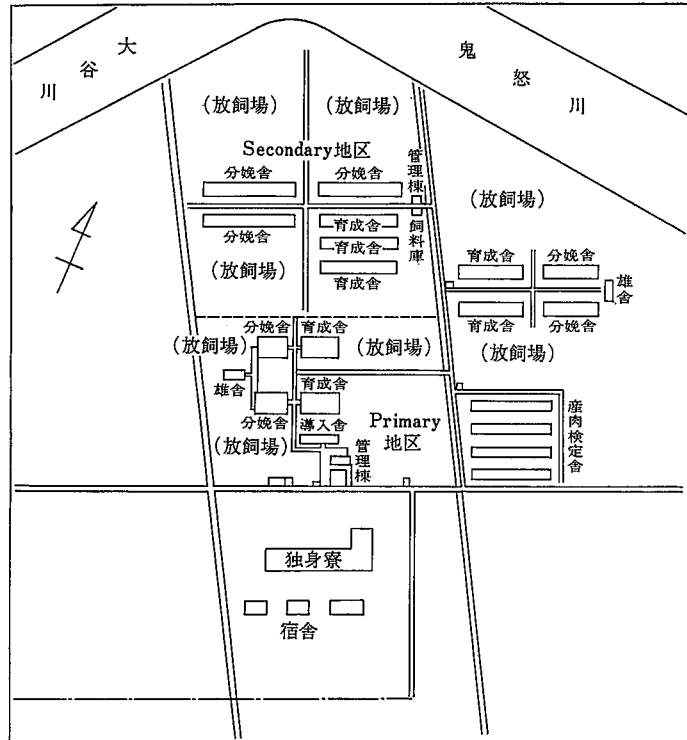
現在、住商鬼怒川SPF豚農場では種豚の飼育頭数は250頭で、これらのうちPrimary SPF豚は50頭であります。これらの種牝豚が目下Secondary SPF豚を生産していますが、46年度中には、種豚としてのSecondary SPF豚が約600頭になる予定です。またSecondary IのSPF豚から生産されるSecondary IIのSPF豚が今年7月から生産開始される予定になっています。したがって来年下期から一般農家にSecondary SPFⅢ豚を払いさげる見通しがついています。そのため、今年度から末端の農家段階でのRepopulationの検討をすすめています。農家段階におけるRepopulationにはいろいろな問題もあると思われますが、ここで重要なことはSPF豚を導入するまえに従来の豚舎を消毒し、飼料および人・車の入出制限を重点的に指導することでしょう。

住商鬼怒川SPF豚農場の現状の設備はつぎの通りです。

A) 事務所	1棟
B) 宿舎	4棟

* 住商飼料畜産株式会社

図 1
住友商事
SPF 豚農場平面図



C) 管理棟および倉庫	1棟	50m ²
D) Primary 導入豚舎	1棟	150m ²
E) 分娩豚舎	2棟	320m ²
F) 育成豚舎	2棟	300m ²
G) 雄豚舎	1棟	100m ²
H) 放飼場	17区画	480m ²

これらが現在の住商鬼怒川 SPF 豚農場の設備であります。保温設備は現在はボイラーからの温水を豚舎のフロア・ヒーティングに使用しています。予備的な保温では電気およびガスを利用しています。床はすべてチップを利用し、藁は使用していません。

現在の飼料を一般に示されている基準で与えた場合、SPF 豚にとってあまりにも濃厚飼料すぎるために賦形飼料としてヘイキューブの添加も行なっています。これは種豚および育成豚には大変よい影響を与え、また胃潰瘍の防止にも役立っているようです。

また、現状では種豚および育成豚は放牧を十分に行なうとともに、リンカルおよびVitamin

A, D₃, E の添加によって Primary SPF 豚に多いとみられる脚弱および裂蹄も少なくなってきています。

鬼怒川 SPF 豚農場での肥育テストはアミノ飼料および埼玉牧場 SPF 豚農場でのそれと同様、20kg 到達日齢は 55~63日で、また20~90kg には 75~85日で達しています。飼料要求率も20~90kg 到達時の平均が 2.8~3.2です。しかし分娩頭数は初産のものでは平均 7.5 頭であったものが2産目からは10~13頭とその平均産子数も増してきています。Primary SPF 豚の初産における育成率では最初の10腹くらいまでは73%程度であったものが、2産目からのそれは90%以上になってきています。

また種豚の候補からはずれた豚の肥肉成績では屠体にした場合、技肉歩留りが13頭平均で68~72%ときわめてよいようです。また精肉歩留りの方でも Conventional 豚では 65~67%であったのに対し、SPF 豚では 72~73%となっており、このうちバラ肉およびハムやロースの部分に張があり、とくにバラ肉の部分では肉が

厚い半面、脂肪が少なかったようです。

このように、理論的に SPF 豚の優位性が理解されていましたが、実際に企業化に結びつけた場合にも理論値には近い成績が出ており、これが企業をすすめる立場にあって求められてきたゆえんです。

Ⅲ 住商 SPF 豚農場の将来計画

住商では現在鬼怒川農場のみで SPF 豚の増殖および肥育を進めています。今後 鬼怒川 SPF 豚農場で種豚を1,500頭飼育し、純粋種としてランドレース、大ヨークシャーおよびハンプシャーの品種の増殖をおこなう予定です。ついでこれらの品種の性能調査を行ないながら、その性能によって F₁ の増殖を行ない、第2、第3の住商 SPF 農場で SPF 豚を飼育し、種豚団地および SPF 肥育豚団地を造成していく方針であります。

これらのことを行なうために、まず SPF 状態を保つことを第1条件とし、SEP, AR, 豚赤痢, トキソプラズマはもちろん free とし、

その他豚コレラ、豚丹毒などの生ワクチンを使用しています。さらに種豚および種豚育成中のものに対しては高単位不活化日本脳炎ワクチンを使用しています。

つぎに種豚の繁殖能力の検定を行なうため、体重および日齢の記録はもちろん、受胎率、分娩頭数、離乳頭数、育成率などの検定も行なっています。さらに生産された Secondary SPF 豚で産肉能力検定を行ない、これらも体重、日齢はもちろん、増体重、飼料要求率、屠肉歩留り、脂肪の厚さ、肉質の検定まで行なっています。上述の試験を行なうために後代検定用豚舎も建設する予定でいます。このような試験は将来第1～第3農場でも行なう予定になっています。参考のために住商鬼怒川 SPF 豚農場の最終計画を述べるとつぎの通りになります。

Primary SPF 豚地区は現状と変わりませんが Secondary SPF 豚地区の設備の増設は今年から計画進行しています。その設備はつぎの通りです。

写真 1 放牧中の種豚

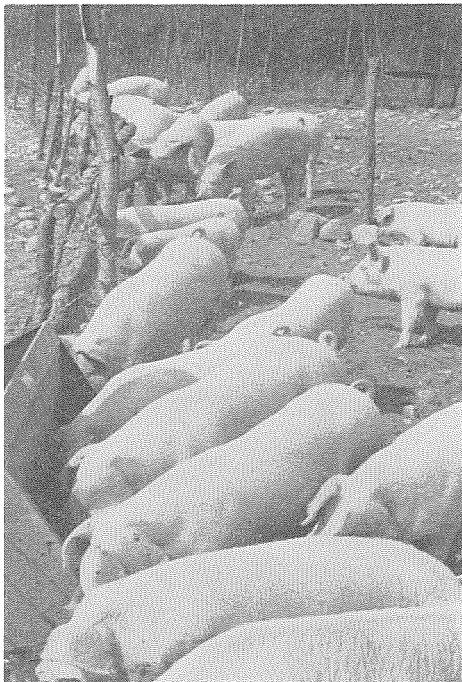


写真 2 育成中のハンプシャー

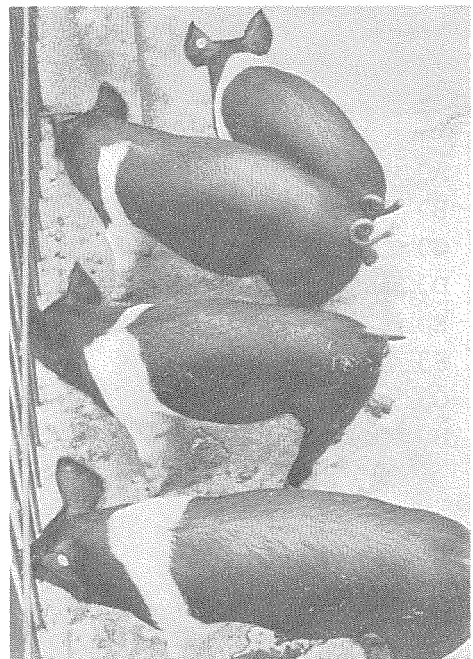


写真 3 農場における採食中の種豚群

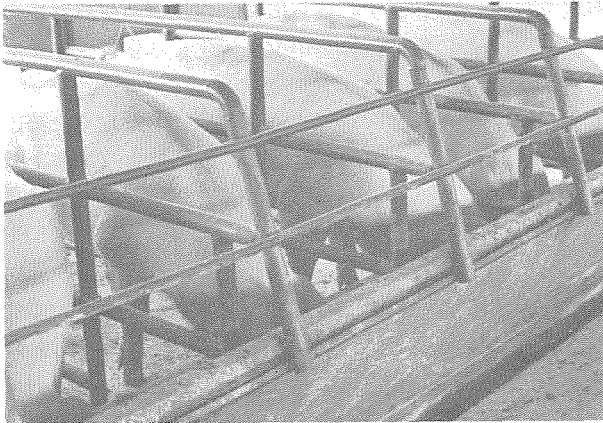


写真 4 哺乳中 Secondary SPF 子豚



A) 分娩豚舎	5 棟	700m ²
B) 育成豚舎	5 棟	450m ²
C) 雄豚舎	2 棟	150m ²
D) 管理棟	2 棟	50m ²
E) 飼料庫	2 棟	50m ²
F) 産肉検定豚舎	4 棟	950m ²
G) 放牧場	77区画	480m ²
H) 糞尿処理設備	1 基	

これが住商鬼怒川 SPF 豚農場で計画されている全容です。第2農場として考えられている宮城県丸森町住商丸森 SPF 豚農場の総面積は 240,000m²で、ここでは Secondary II および III SPF 豚の種豚の飼育計画をたてています。これらの Secondary SPF 豚から生産された種豚および肉豚仔豚の一部は一般養豚家へ販売される予定になっています。

第3農場の構想は関西地区で目下検討中であります。

これらの各農場のうち関西の農場は近畿、中国地区への SPF 種豚および肉豚の供給を行ない第2農場、すなわち住商丸森 SPF 豚農場からは東北地区へ、また第1農場の住商鬼怒川 SPF 豚農場からは、第2、第3農場への Secondary SPF 豚の供給および関東、甲信越地区への SPF 種豚の供給を計画しています。各農場からだされる種豚を生産団地へ供給する一方、技術的にすぐれた農家に対しても一貫生産方式による SPF 豚生産体制づくりを計画しています。

む す び

以上、住商 SPF 豚農場の紹介をかねて住商の SPF 豚に関する計画の一端を紹介しました。

SPF 豚が現状の Conventional 豚よりも生産性が高いので、これの企業化のために今後もお研究を積み重ね、一般養豚家レベルの集団変換の実現にも努力し、わが国の養豚が国際競争力に打ちかつことを祈念してやみません。